

第4回 福岡県環境審議会 環境総合ビジョン専門委員会 議事要旨

1 開催概要

日時： 令和3年12月21日（火）10:00～11:00

場所： Web開催（委員長及び事務局：福岡県庁 特9会議室）

出席： 浅野直人委員長、伊藤洋委員、伊澤雅子委員、岩熊志保委員、佐藤しのぶ委員
馬奈木俊介委員

2 議題

(1)福岡県環境総合ビジョン答申案について

3 議事概要

(1) 答申案の修正点について

○ （事務局から資料1～4を用いて説明）

（委員質問・意見）

- 資料2-1パブコメ意見の3番目「遺伝子組み換え生物」について、御意見はこれから先の施策の方針についての意見なので、この対応案では回答になっていないのではないかと。【伊澤委員】
- カルタヘナ法では国が権限を持っており、都道府県に権限はないため、ビジョン本文は直すことは難しいが、パブリックコメントへの対応には「必要に応じて国へ要望していきます」といった県の姿勢は示す方がよい。【浅野委員長】
- 資料2-2市町村意見の2番目「市町村の関わり」について、確かに書きぶりは弱いが、県計画は県のすることが主体であるため、市町村の役割の書きぶりは難しい。対応案には、部門計画として「温暖化対策実行計画」と「生物多様性戦略」があり、それらのどこに市町村の役割が記載してあるかを具体的な例を示して、丁寧に回答すること。【浅野委員長】
- 資料4答申案のp5に、国の第五次環境基本計画で「地域循環共生圏という考え方が示された」とあるが、実際は第四次環境基本計画で打ち出されていたもの。環境省も同様の記載をしているので県の文責ではないが、事実在即して「示された」でなく「再確認された」とすること。【浅野委員長】
- 資料4答申案のp10（p79にも再掲）柱5のサブタイトルで「ワンヘルス」をうたっているが、直後の目指す社会の文からはワンヘルスを感じにくい。例えば、2つ目の○で「豊かな自然の保全と社会経済活動が両立し、『人と生きものが環境の中で一つにつながり、健やかにともに生きることにより、』形成された里地里山や～」としてはどうか。【浅野委員長】
- 「自然」を「生きもの」に置き換えられたことでワンヘルスの概念に近くなり、よい案と思う。【伊澤委員】
- 各市町村の方と話す機会があるが、ワンヘルスの概念は理解しにくいという声を聞く。浅野委員長の案の方が、生物多様性と並んでワンヘルスが出てくることが理解しやすいと思う。【岩熊委員】
- 資料4のp41の下段の段落の設定が他と合っていないので修正されたい。また、p67の海洋ごみだが、海外からの海洋ごみも多い。海洋ごみは海外由来だけでなく、どこでポイ捨てしても最終的には海に着いてしまうことが分かるようにされたい。【伊藤委員】
- 一般に、海洋ごみは海外から来るものと思込んでいる人が多いので、ポイ捨ても原因になることを強調したかった。海外由来だけでないことについて、文言の追加を検討する。【浅野委員長】

- 1月の環境審議会で質問があるかもしれないのでコメントする。最近、博多湾で船の座礁による油流出があったが、継続してモニタリングされている過去のデータとの比較により、事故後の検査で水質に問題ないことが分かり、漁が再開されたと聞いている。p97～98で県域のBOD、CODの平常時のデータが示されているが、このような非常時への対応に県のデータが活かされているのであれば。この点をアピールしてはいかがか。【佐藤委員】
- 博多湾は福岡市が環境基準（油分）を測定したと思うが、（県の海域での対応も含め）環境審議会で見解・質問が出たときの回答を準備しておくこと。【浅野委員長】
- p41の環境マイスターの活動に、「地球温暖化問題、エネルギー問題」とあるが「生物多様性」も触れてほしい。また、p32の「目指す姿」の4つ目の○の「。」が抜けている。【岩熊委員】
- これは追記すること。【浅野委員長】
- 全体をとおして他に御意見がなければ、1月の環境審議会ですす答申案は、委員長に一任いただいてよいか。【浅野委員長】

（一同異議なし）